

名鉄グループ 環境報告書

2019



私たち名鉄グループは、
グループを挙げて環境保全への
取り組みを積極的に推進し、
エネルギー使用量や
環境負荷の低減に努め、
環境にやさしい企業をめざします。

名古屋鉄道株式会社 取締役社長

安藤 隆司



名鉄グループは、「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」ことを使命とし、「地域から愛される信頼のトップブランド」をめざすことを経営理念に掲げています。これらに基づき、交通事業を基盤に総合的なサービスを提供することを通して、地域の皆さまの生活がより豊かなものとなるよう尽力しているところです。

豊かな生活の実現のためには、「環境への配慮」は欠くことのできない重要な要素のひとつです。国際社会では、2015年の国連総会で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」のもと、「気候変動への具体的な対策」や「陸の豊かさの保全」など17の目標分野で、さまざまな取り組みが進められています。私たち企業も永続的に発展・成長していくには、これまで以上に環境保全に配慮した活動の推進が求められます。

名鉄グループでは、2006年4月に「名鉄グループエコ・ビジョン」を策定し、「環境問題に対する一人ひとりの意識向上」、「環境保全に関する技術力の向上と提供」などの基本方針を掲げ、グループを挙げて環境保全への取り組みを積極的に推進しています。また、2018年度から2020年度の3ヵ年を対象とした

「アクション・エコ中期計画」を策定し、省エネ車両の導入や、オフィスにおけるエコ活動、廃棄物の削減及びリサイクル率の向上など具体的な施策を促進することで、エネルギー使用量や環境負荷の低減に努めています。

また、「電車で、ECO MOVE。」のキャッチフレーズのもと、鉄道など公共交通機関の利用が「身近で簡単な環境活動になること」を地域の皆さまに広くご理解いただく活動を行うとともに、より多くのお客さまに鉄道をご利用いただくため、駅のバリアフリー化や待合所の環境整備、パーク＆ライド駐車場の整備など、利便性や快適性の向上に向けた取り組みを進めています。

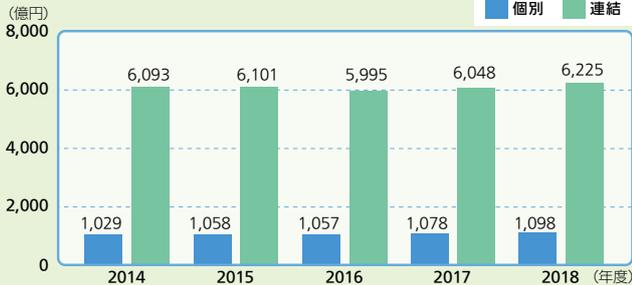
このほか、資源の効率的な活用という観点から、カーシェアをはじめとしたシェアリングエコノミーの展開を推進しており、今後もこうした取り組みを継続してまいります。

私ども名鉄グループは、地域のお客さまをはじめ、多くのステークホルダーの皆さまからさらなる信頼を得られるよう、従業員一人ひとりが高い環境意識を持ち、環境に優しい社会の実現に貢献するべく、これからも真摯に取り組んでまいります。

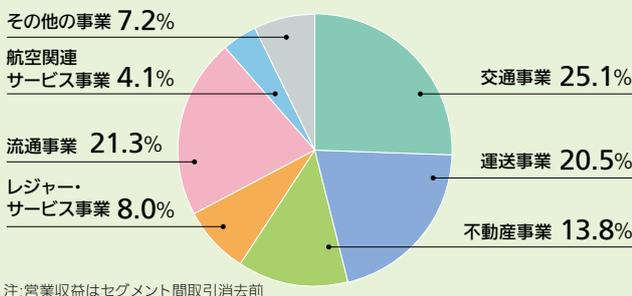
名鉄グループの概要 (2019年3月31日現在)

- 関係会社数 連結子会社 117社
持分法適用会社 15社
- 営業収益 6,225億67百万円 (2019年3月期)
- 従業員数 29,855人

■ 営業収益の推移



■ 営業収益比率 (2019年3月期)



名鉄グループ経営ビジョン

使 命	地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する	
経営理念	私たち名鉄グループは、豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される「信頼のトップブランド」をめざします	
経営方針	経営の原点	お客さま満足度を高める全社体制の確立
	グループ経営の方向	競争に打ち勝つ経営力強化と新しい事業への挑戦
	目指す社風	一人ひとりの資質向上とチャレンジできる風土づくり
	存続の条件	社会的責任の完遂
行動規範	<ul style="list-style-type: none"> ■ 真心のこもったサービスを提供し、信頼を勝ち取ります ■ 新しい流れをつかみ、常にチャレンジします ■ 一人ひとりが役割と責任を果たし、前進します 	

名古屋鉄道株式会社の概要 (2019年3月31日現在)

社 名	名古屋鉄道株式会社 Nagoya Railroad Co., Ltd.
創 業	1894年6月25日
設 立	1921年6月13日
代 表 者	取締役社長 安藤 隆司
資 本 金	1,007億78百万円
年間収益	1,098億15百万円 (2019年3月期)
従業員数	5,086人
事業内容	鉄軌道事業、開発事業
駅 数	275駅
営業キロ	444.2km
輸送人員	年間393,236千人 (2018年度実績)

目 次

ごあいさつ	1
名鉄グループの概要	2
名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制	3
名鉄グループ エコ・ビジョン	3
推進体制	3
アクション・エコ中期計画	4
環境マネジメントシステムの導入	4
名古屋鉄道の取り組み	5
名鉄エコ・プラン	5
行動指針① 環境負荷の軽減	6
行動指針② 利便性の向上	9
行動指針③ 地域環境貢献	10
行動指針④ 環境法令の遵守	10
環境負荷データ	11
環境会計	12
名鉄グループの取り組み	13
交通・運送・航空	13
不動産・技術	14
流通・レジャー・サービス	14





名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制

名鉄グループ エコ・ビジョン

名鉄グループでは、環境にやさしい企業活動をグループ経営戦略のひとつとして活かし、社会的責任の完遂を進めていくため、2006年4月に環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」を策定しました。

名鉄グループ エコ・ビジョン

基本理念

名鉄グループは、環境問題を地球規模で考え、
地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業をめざします

基本方針

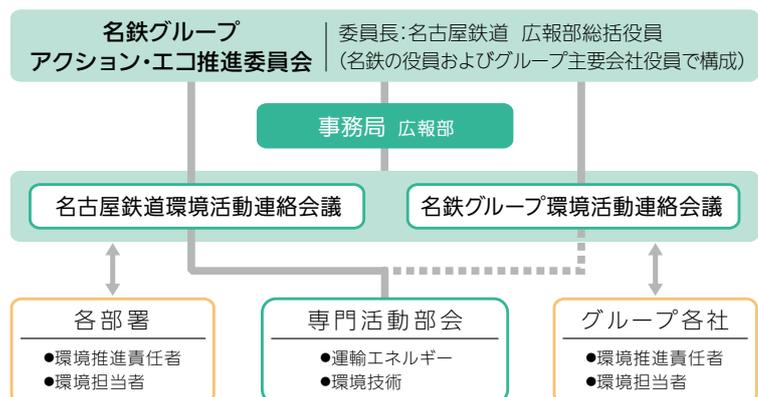
- 1 環境問題に対する一人ひとりの意識向上につとめます**
地球環境問題を正しく理解し、持続可能な社会の実現のために一人ひとりが行動できるよう、環境教育や啓発を通じて、意識向上を図ります。
- 2 環境保全に関する技術力の向上と提供につとめます**
グループが展開する幅広い事業を活かし、各社は保有・開発する環境保全事業やノウハウの共有と社会への提供を通じて、環境負荷の軽減を図ります。
- 3 地域との連携を大切にし、環境保全に対する社会貢献につとめます**
地域を中心とした関係各方面と協力し、地球環境保全の向上を図ります。
また環境に関する情報公開を通じて、あらゆるステークホルダーとの対話を深めます。
- 4 環境法令の正しい理解と遵守につとめます**
名鉄グループ企業倫理基本方針に則り、環境法令の理解・遵守はもちろんのこと、各社相互間の情報交換等を通じて、環境リスクの予防と低減を図ります。

行動目標

上記の基本理念・基本方針を受け、名鉄グループ各社毎に、
環境活動における行動目標を設定します。

推進体制

名鉄グループ一体となった活動を推進するため、2006年4月に「名鉄グループ アクション・エコ推進委員会」を設置しました。この委員会では、具体的な施策の立案と推進を行います。施策の実施を円滑に行うため、連絡会議の開催や、各部署・各社に配置した「環境推進責任者」「環境担当者」を通じて、活動の浸透を図っています。





アクション・エコ中期計画

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会では、グループが一体となった環境活動を推進するため、2018年度から3ヵ年を計画期間とする「アクション・エコ中期計画（2018～2020年度）」を策定しました。本計画では、「名鉄グループ エコ・ビジョン」の基本方針に基づき、4つの重点テーマを設定し、さらにそれぞれのテーマごとにブレイクダウンした取り組み事項を定めています。

■名鉄グループ アクション・エコ中期計画（2018年度～2020年度）

重点テーマ	取り組み内容
1 環境意識の向上	■環境方針の周知 <ul style="list-style-type: none"> ●環境教育の実施〔★〕
2 環境負荷の軽減	■2020年度のエネルギー使用量を2017年度実績に対して3%削減〔★〕 <ul style="list-style-type: none"> ●省エネ設備・機器の導入・切り替え ●エコ運転への取り組み推進 ●事務所での省エネ活動の推進 ■環境保全の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物の削減及びリサイクル率の向上 ●事務用品のグリーン購入推進
3 環境コミュニケーションの推進	■積極的な情報開示 <ul style="list-style-type: none"> ●WEBでの積極的な情報開示 ■地域と一体となった環境活動への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ●地域清掃活動の実施や啓蒙イベントの実施〔★〕
4 環境関係法令の遵守	■事業に関連する環境関係法令への対応 <ul style="list-style-type: none"> ●有害物質の厳正な管理

〔★〕の項目は、対象会社全体が取り組む重点項目

環境マネジメントシステムの導入

名鉄グループ各社では、より環境に配慮した事業展開を行うため、各種の環境マネジメントシステムを導入しています。これにより、環境負荷の軽減や環境リスクの予防はもとより、経営効率の向上などの効果も生まれています。

■ISO14001認証取得会社

会社名	取得年月	審査登録機関
名古屋鉄道(舞木検査場)	2000年6月	JQA
矢作建設工業	2000年8月	建材試験センター
名鉄EIエンジニア	2001年6月	JQA
名鉄ビルディング管理	2002年6月	JQA
名鉄運輸	2002年9月	JQA

JQA:日本品質保証機構

■グリーン経営認証取得会社

バス

濃飛乗合自動車 / 名鉄観光バス

タクシー

名鉄交通第一 / 名鉄交通第二 / 名鉄交通第三
 名鉄交通第四 / 愛電交通 / 名鉄名古屋タクシー
 名鉄知多タクシー / 名鉄西部交通西部
 名鉄西部交通北部 / 名鉄東部交通 / 名鉄岡崎タクシー
 石川交通 / 豊鉄タクシー

トラック

北海道東北名鉄運輸 / 名鉄ゴールデン航空
 信州名鉄運輸 / 信州名鉄運送 / 新潟名鉄運輸 / トーハイ
 名鉄急配 / 北陸名鉄運輸 / 関西名鉄運輸 / 中国名鉄運輸
 四国名鉄運輸 / 四国名鉄運送 / 九州名鉄運輸

■名古屋市優良エコ事業所認定会社

名鉄産業

■名古屋市エコ事業所認定会社

名古屋鉄道 / 名鉄観光バス / 名鉄急配
 名鉄ビルディング管理 / 名鉄百貨店 / 名鉄協商 / 名鉄産業
 名鉄交通商事 / 名鉄EIエンジニア / 名鉄環境造園
 矢作建設工業

■自動車エコ事業所認定会社

名鉄バス / 名鉄協商

■エコアクション21認証取得会社

名鉄レストラン / 名鉄交通商事

(2019年10月現在)



名古屋鉄道の取り組み

名古屋鉄道は、愛知・岐阜両県下に444.2kmの鉄道路線網を持ち、お客さまの足として公共交通サービスを提供しています。地球環境問題への意識が高まる中、エネルギー効率のよい鉄道はマイカーに比べCO₂排出量が約7分の1であり、「環境にやさしい乗り物」として、その果たす役割が見直されてきています。当社は、省エネルギー車両への更新やパーク&ライド駐車場の整備、使用済み乗車券のリサイクルなどに継続的に取り組み、地球温暖化防止に努めています。

これからも、さらなる輸送サービスの向上をめざし、さまざまな交通事業者との連携や地域特性を活かした交通ネットワークの充実を図るとともに、安全で快適な移動環境を提供することで、お客さまの利便性と満足度を高め、地域社会に貢献していきたいと考えています。

名鉄エコ・プラン

2007年4月に環境活動の基本的な考え方を示す環境方針「名鉄エコ・プラン」を制定しました。各部署は、「名鉄エコ・プラン」の行動指針と行動目標に基づき、それぞれの業務の中で発生する環境負荷の把握を行い、それを軽減させるための各種取り組みを行っています。

名鉄エコ・プラン

行動指針

- 1 環境負荷の軽減**
省エネルギー、リサイクルなどの目標を掲げ、温室効果ガスを削減します。
○ 運転電力削減目標を達成します。
○ 使用済み乗車券のリサイクル率100%を達成します。
- 2 利便性の向上**
効率的で利便性の高い公共交通サービスを提供し、環境にやさしい鉄道の利用を促進します。
- 3 地域環境貢献**
地域の皆さまとともに環境保全活動を推進し、環境にやさしい地域社会づくりに貢献します。
- 4 環境法令の遵守**
環境問題に対する意識を高め、環境法令の遵守を徹底します。

行動目標

「環境に関する行動目標」を毎年度策定し、実施する。

■2019年度 名古屋鉄道 環境に関する行動目標

テーマ	取り組み内容	
1 環境意識の向上	環境教育の実施	社内研修の実施
2 環境負荷の軽減	鉄道運転電力の削減	運転電力原単位 2020年度までに2017年度比3%削減
	列車騒音・振動の低減	ロングレール化の推進
	グリーン購入率の向上	グリーン購入率80%以上の達成
	エコオフィス運動の推進	「エコ・マニフェスト」の推進
	省エネ設備導入の検討	LED照明等の導入検討
3 環境コミュニケーションの推進	地域への環境貢献	地域との協働による清掃活動の実施
	環境活動のPR	子供向け環境教育の推進
	積極的な情報開示	環境WEBサイト等の充実
4 環境法令の遵守	廃棄物の厳正な管理	廃棄物管理体制の強化



Eco Plan

エコ・プラン行動指針

1

環境負荷の軽減

Eco Plan

1

電車の運転電力原単位の向上

電車の運行には、非常に多くの電力を消費します。なるべく少ない電力で運行ができるよう、乗務員の節電運転研究や、部署ごとの省エネ活動組織(運輸エネルギー部会)での取り組みのほか、車両自体の省エネルギー化の推進や電気設備の改良を行い、原単位※の向上に努めています。

2018年度は、活発なホーム活動、案内・誘導による定時運転の確保、節電を意識した運転操作を行うとともに、年間を通し、こまめな車内空調の取り扱いを実施しました。

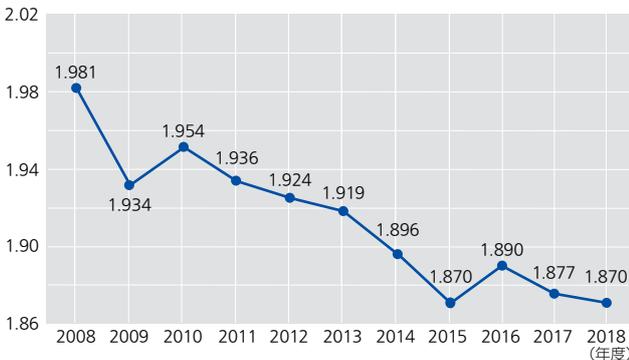
これらの取り組みに加え、車両の省エネルギー化を進め、運転電力原単位の向上に努めました。今年度も引き続き、以下のような目標を設定し、更なる原単位の向上に努めてまいります。

※車両1両が1km走行するのに要する電力量



2020年度の電車の運転電力原単位を、全線で2017年度比▲3%をめざします。

● 1車両1キロあたりの電力使用量の推移 (kWh/Car-km)



Eco Plan

1

車両の省エネルギー化

省エネの観点から、旧型車両の計画的な更新を進めています。ブレーキ時にモーターを発電機として作用させ、生み出された電力を架線に戻し、他の電車が加速する際その電力を使えるようにできる「電力回生ブレーキシステム」や、架線から受ける直流電流を交流に変換し、効率よく電力の使用ができる「VVVFインバータ制御」機能を搭載した省エネルギー車両への更新により、消費電力の削減を図っています。

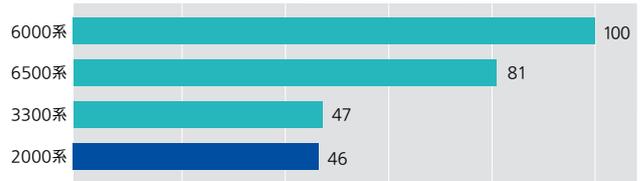
2018年度は、既存車両24両を廃車し、VVVFインバータ制御機能を搭載した車両を22両新造しました。今後も快適性の向上とともに、省エネルギー車両の導入を推進してまいります。



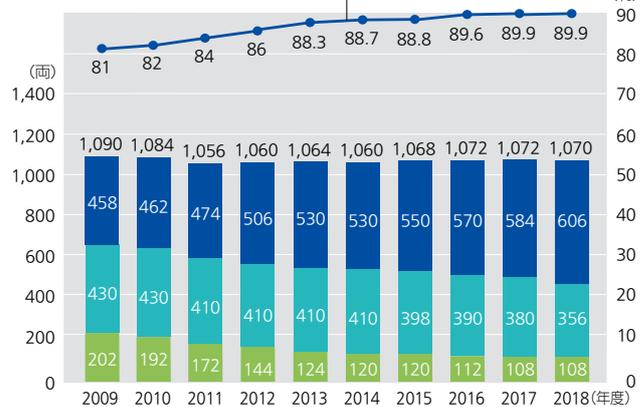
2018年度末現在

車両数 ----- 1,070両
 省エネルギー車両数 ----- 962両
 省エネルギー車両導入率 ----- 89.9%

● 名鉄の車両別消費電力の比較 (指数(6000系=100))

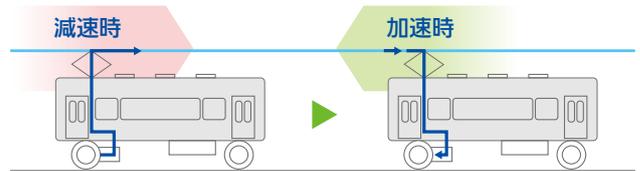


● 省エネルギー車両の推移



VVVF車(回生ブレーキ付)(2000系、3500系など)	606両
回生ブレーキ車(6500系など)	356両
従来型車(6000系)	108両

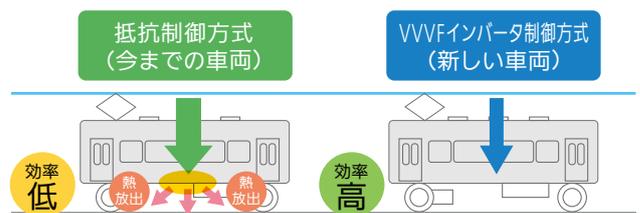
● 電力回生ブレーキシステムの仕組み



ブレーキ時に、モーターを発電機として作用させ、発生する電力を架線へ返す。

回生された電力をもらって加速する。

● VVVFインバータ制御の仕組み



抵抗器を用いて電力量の調節を行っていたため、抵抗器の発熱によって電気エネルギーを無駄に消費してしまう。

少ない消費電力で、速度に応じて電圧や周波数を調整し、最適な制御を行い、電気を効率よく使って、省エネ運転が可能。



電気施設の省エネルギー化

鉄道事業において非常に多く使用する電力を、最大限効率よく使用し、地球温暖化防止に貢献するため、電気施設の省エネルギー化を推進しています。

■力率改善コンデンサの設置

大容量の電力を直接、電力会社から購入し、沿線34ヵ所に設けた自社変電所で受電し、主に電車の運転エネルギーとして使用しています。受電した電力を効率よく使用するため、変電所に力率改善コンデンサーを設置し、エネルギー効率の向上を図っています。現在11ヵ所の変電所で使用し、平均力率99%となっています。

■き電線の強化

架線に流れている電車運転電力の送電ロスを低減させるため、き電線を太くするなどの強化を進めています。当社ではすべての線区で上下一括き電方式を採用しています。この方式は、上り下りの架線を接続して電力を供給する方式で、走行中の電車まで効率良く電気を流すことができます。また、回生電力を上り下りの電車に限定されることなく、有効に使えるメリットもあります。



電気保守作業

■騒音の低減化

変電所の新設や大規模改良工事の機会に合わせて、防音壁等の設置や屋内型機器の採用により、変圧器のうなり音や開閉装置等の動作音による騒音の低減を図り、周囲の環境に配慮しています。



屋内型機器を採用した各務原変電所

■信号機および踏切灯器のLED化

信号機および踏切灯器で使用する電球のLED化を順次進めており、2019年3月時点では全信号機の50%に導入しています。LEDは電球に比べ消費電力が少なく、長寿命であるだけでなく、視認性にも優れているため、今後も新設または更新の際にはLED化を積極的に進めてまいります。



LED化した信号機



沿線環境保全

■ロングレール化

レールには継目があり、継目の上を列車が通過することにより、騒音と振動が発生します。これを軽減するため、継目を溶接し、1,000m前後の長さにするロングレール化を各所で進めています。



土木保守作業



ロングレール化累積施工実績(2018年度末時点)
275.1km(敷設可能区間のうちの70.5%)

■レールの重量化

レールを重いものにすることで列車の走行性が安定し、乗り心地が向上するほか、騒音・振動の減少にも効果があります。本線軌道長のうち99%が重レール(50kg/m以上のレール)になっています。

■レール削正車の活用

線路の保守管理の手法として、車体の下に装着された16個の砥石を高速回転させ、レールの細かな傷や凹凸を削り取るレール削正車を活用しています。これにより、レール寿命の延伸、騒音・振動の軽減や乗り心地の向上を図っています。2018年度は、名古屋本線、常滑線等において、軌道延長49.4kmのレール削正を実施しました。



16頭式レール削正車



リサイクルの取り組み

名古屋鉄道では、早くから使用済み乗車券のリサイクルに積極的に取り組んできました。1996年度にリサイクルシステムを稼動してから段階的にリサイクル処理量を増やし、2006年度からはすべての使用済み乗車券(定期券およびカード類含む)をリサイクルしています。

2018年度は、使用済み紙製乗車券が20t発生、すべてをリサイクル処理し、使用済み乗車券を原料に製作したリサイクルベンチの背板を50枚、座板を70枚設置しました。



乗車券リサイクルベンチ



2018年度乗車券リサイクル率 **100%**(紙製乗車券)



オフィスでのエコ活動

オフィスでの環境活動は、廃棄物の分別から省エネルギー、グリーン購入に至るまで、さまざまです。身近で幅広いオフィスでの取り組みは、企業の環境活動の基本として位置付け、継続的に取り組んでいます。

■各部署共通『エコ・マニフェスト』の策定

従業員一人ひとりの環境意識の一層の高揚により、エコな職場の実現をめざしていくため、各部署共通の『エコ・マニフェスト』を定めています。『エコ・マニフェスト』はポスターにして各部署で掲示しています。

各部署共通エコ・マニフェスト

1. 長時間離席時の照明消灯・パソコンディスプレイ閉じの徹底
2. オフィス内の適度な温度設定
3. 紙・水使用量の削減
4. 環境対応商品(グリーン商品)の採用
5. 家庭におけるエコ活動の実施

■グリーン購入方針の策定

環境に配慮した資材や物品の購入を行うグリーン購入を進めています。名古屋鉄道では、2003年に購入の際の指針となる「グリーン購入方針」を策定しています。



2018年度グリーン購入率 **80%**(金額ベース)

名古屋鉄道グリーン購入方針

製品を購入する際には、次の項目に留意して、できる限り環境負荷の少ない製品の購入に努める。

1. 環境汚染物質の有無の確認
2. 省エネルギー製品の優先的購入
3. 長寿命製品の優先的購入
4. リユース・リサイクルの推進
5. リサイクル製品の優先的購入
6. 廃棄の際に環境負荷の少ない製品の優先的購入
7. 環境に関する情報を入手しやすい製品の優先的購入



その他の取り組み

■自然エネルギーの利用

近年、太陽光、風力、地熱など枯渇の不安がない自然現象から得られるエネルギーへの注目は高まり続けています。そうした中、当社でも駅や駅ビルの一部設備において、太陽光や雨水など自然から得られるエネルギー、資源を利用しています。

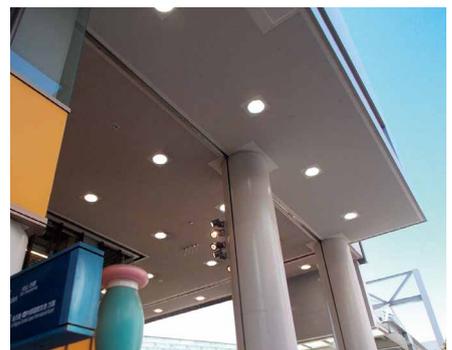
尾張瀬戸駅では、2001年から太陽光発電パネルおよび雨水タンクを設置し、駅の照明の一部、トイレの洗浄水を賅っています。また、名鉄一宮駅ビル(名鉄百貨店一宮店)および名鉄長住町ビル(岐阜ロフト)でも雨水を雑用水に活用しています。



太陽光発電パネル(尾張瀬戸駅)

■保有施設の省エネ化

名古屋鉄道の保有する施設では、更新などのタイミングに合わせ省エネ化を進めています。名鉄長住町ビル(岐阜ロフト)では、共用部天井照明を全てLED化したほか、名鉄岐阜駅商業ビル「ect(イクト)」では、エスカレーター上部の照明をLED化しました。その他にも、名鉄金山駅ビル東・西棟の受電設備更新において、高い省エネ性能をもつ「キュービクル式高圧受電設備」を導入しています。



長住町ビル天井照明



Eco Plan

1

DBJ環境格付の取得について

名古屋鉄道は、環境に配慮した企業経営が評価され、日本政策投資銀行(DBJ)が実施する2018年度「DBJ環境格付」において、「環境への配慮に対する取り組みが先進的」という環境格付を取得しました。

省エネ仕様の車両や電気施設、LED照明の導入等、継続的に省エネ対策を推進している点や、環境負荷の低い交通手段としての鉄道利用を促進すべく、豊富な観光資源を有する沿線地域との協同によるイベントを開催している点などが高い評価を受けました。



当社は、2019年3月日本政策投資銀行(DBJ)より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが先進的」と評価されました。

Eco Plan

1

中部地区で初めて「ESG経営支援ローン」を成約

名古屋鉄道は、2019年3月に「ESG経営支援ローン」を活用した借入契約を中部地区で初めて締結しました。これは、ESG(環境・社会・ガバナンス)評価に優れた企業を対象にした三菱UFJ銀行が実施する第三者認証付きローンで、同借入は名古屋鉄道と三菱倉庫の共同事業であるオフィスビル「(仮称)名駅一丁目計画」の建設費の一部に充当する予定です。なお、同ビルは、第三者機関である日本格付研究所より、環境に配慮した取り組みや設計が高く評価されています。



オフィスビル「(仮称)名駅一丁目計画」イメージ

Eco Plan

エコ・プラン 行動指針

2

利便性の向上

Eco Plan

2

「パーク&ライド」で環境にやさしく

「パーク&ライド」とは、会社や学校などの目的地に、直接クルマで行くのではなく、最寄りの駅やバス停近くの駐車場にクルマを停めて、鉄道やバスに乗り換え、目的地に向かう移動方法のことです。

■パーク&ライドのメリット

渋滞する場所に行く前に乗り換えるので

- 環境負荷を低減できる
- 運転でイライラせずに済む
- 鉄道や地下鉄で予定時間までに確実に早く着ける
- 目的地で空き駐車場を探し回らなくて済む
- 都心や観光地の中心部の割高な駐車料金を払わなくて済む

名古屋鉄道では、パーク&ライドに適した駐車場を沿線に約2万台分用意しています。



Topics

エスディー・ジーズ

SDGs (持続可能な開発目標)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs(持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、貧困・飢餓をなくすことや、世界規模で発生している環境問題に対処していくことを目標としています。この目標は、先進国、発展途上国の区別なく、国連に加盟しているすべての国が取り組むべきものとして世界中でその取り組みが活発化しています。日本でも積極的に取り組みを進めており、名古屋鉄道でも、住みやすい沿線づくりを進めるなどSDGsの視点を持って活動を行っています。



Eco Plan

エコ・プラン 行動指針

3

地域環境貢献

Eco Plan

3

沿線での清掃奉仕活動

名古屋鉄道は駅をはじめ沿線を中心に、多くの事業所が点在しています。事業所が所在するそれぞれの地域の皆さまと、よりよい関係を保ち、共存させていただくため、環境面での社会貢献活動も積極的に行っています。

例えば、本社周辺では「名駅をきれいにする名鉄グループの会」を立ち上げ、名鉄グループの各社とともに毎月第2・第4月曜日に名鉄名古屋駅周辺の清掃活動を行っています。



「名駅をきれいにする名鉄グループの会」の清掃活動

また、舞木検査場や犬山検査場では、名鉄エコ・プランの行動指針の一環として、地球環境への貢献を目的に検査場周辺の清掃活動を定期的に行っています。

Eco Plan

3

環境イベントの実施

環境イベントを通して、名古屋鉄道の環境活動について広くご理解いただけるよう努めています。

「名鉄でんしゃまつり」では環境への取り組みを紹介し、併せて参加者の皆さまがより環境への意識を高めていただけるよう、小学生以下を対象として、環境に関するレクチャーを行う「エコ教室」や環境をテーマとした「エコクイズラリー」を実施しました。



エコ教室

今後も地域の皆さまと環境について考えるイベントや活動を進めてまいります。

Eco Plan

3

エコバスハイキングの実施

名古屋鉄道と名鉄観光バスでは、合同企画として2019年11月3日、4日に、「地球環境とその大切さを学ぶ」をテーマにバスハイキング「伊勢志摩国立公園 英虞湾一望の横山を歩く」を開催し、2日間で92名が参加しました。同コースではハイキング出発前に、伊勢志摩国立公園「横山ビジターセンター」にて、環境保全の大切さについて学んだ後、ハイキングをお楽しみいただきました。



レクチャーを受ける参加者

Eco Plan

エコ・プラン 行動指針

4

環境法令の遵守

Eco Plan

4

環境教育

従業員一人ひとりが環境問題や環境法令に対して正しい認識を持つことが、活動の基礎として最も重要であると考え、全従業員に対して、定期的に環境教育を実施しています。（新規採用時、入社10・20年経過時等）



入社10・20年次研修

● 2018年度 環境教育(研修)受講者数

新入社員研修	入社10・20年次研修	合計
135名	175名	310名

Eco Plan

4

改正省エネ法への対応について

名古屋鉄道は、省エネ法に基づき、特定輸送事業者として、鉄道事業に係る省エネルギー計画書および毎年のエネルギー使用量の報告を行っています。

また、省エネ法に基づき、2018年度分の当社全体のエネルギー使用量を届け出ています。

Eco Plan

4

PCB廃棄物への対応について

カネミ油症事件に端を発し、製造が禁止された絶縁油「PCB」は、変圧器や整流器、蛍光灯の安定器等で多く使用されており、機器の使用中止後も専用の処理施設以外での廃棄処分は認められていません。

名古屋鉄道でも柱上トランスや、車両、ビルの電気室などでPCB使用の電気機器があり、使用後は厳重に保管をしています。2008年1月に当社の廃棄物の処理が始まり、法で決められた処理期限(2027年3月末)までに完了する予定です。

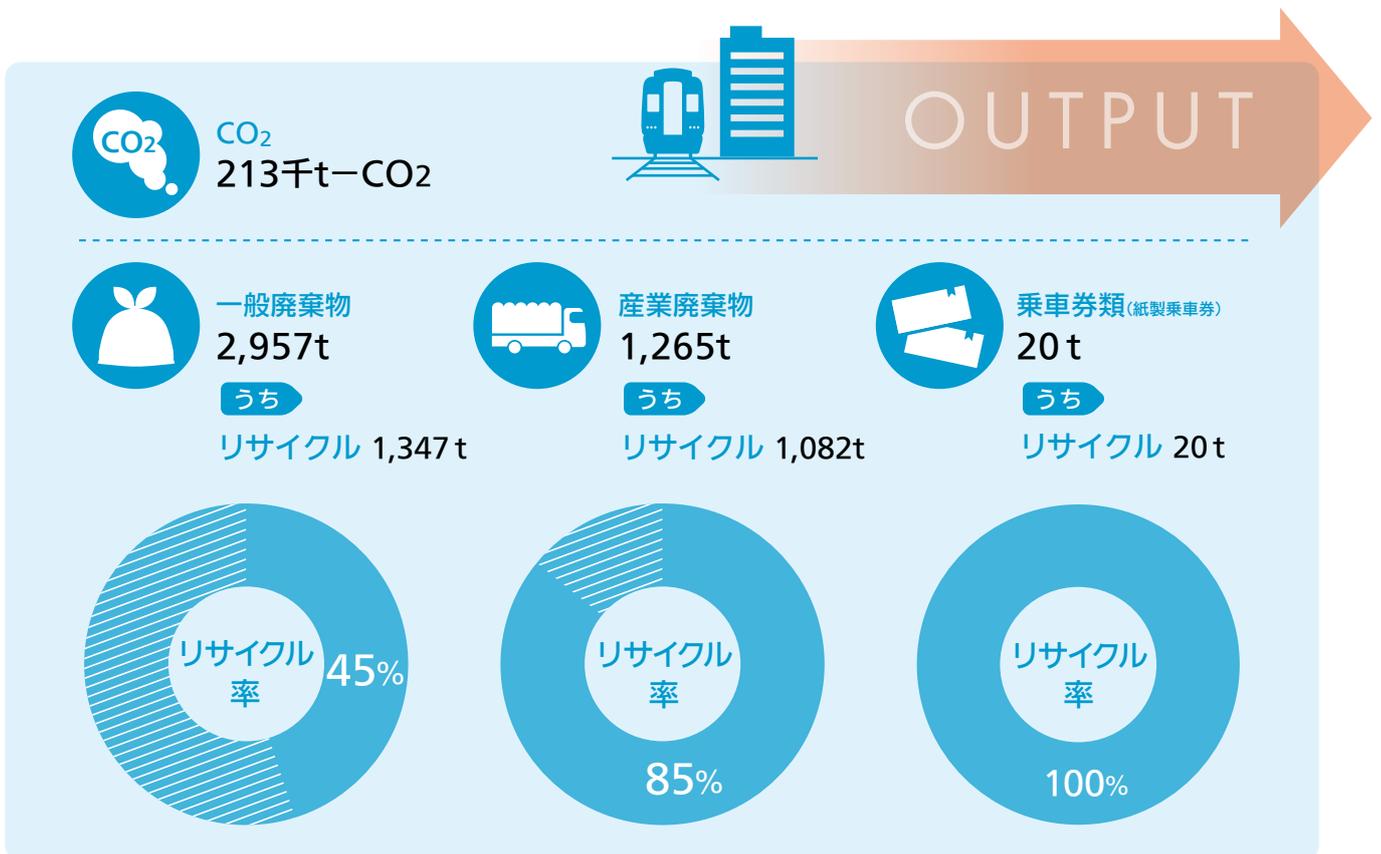
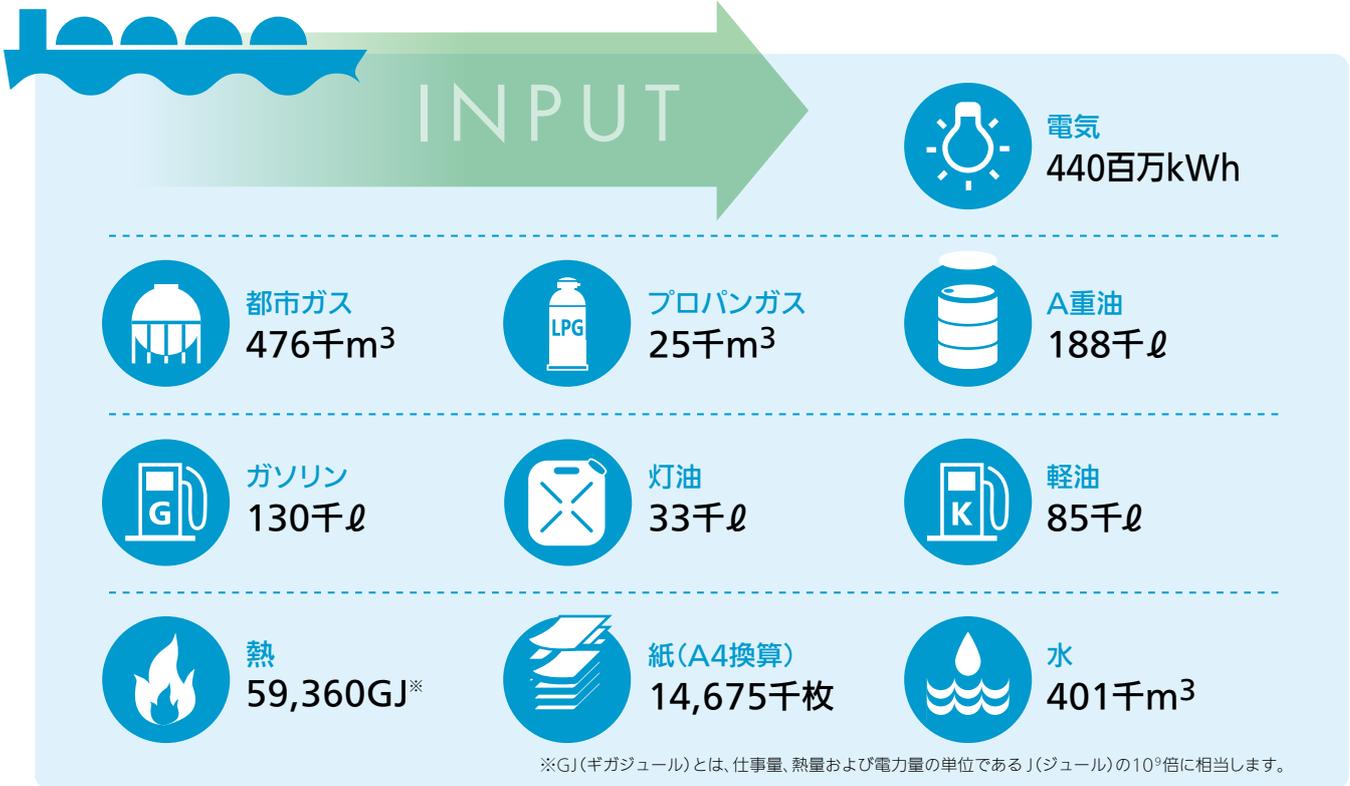


PCB廃棄物の搬出作業



環境負荷データ

事業活動において、電力をはじめとしたエネルギーや資源を消費し、温室効果ガスや廃棄物を排出しています。これらの環境負荷をINPUT・OUTPUTとして把握し、環境負荷を低減する活動につなげています。



・名古屋鉄道(株)のみの数値。(※一部は、名鉄病院、健康保険組合、共済会を除く) ・数値は、切り下げて表示。 ・産業廃棄物の数値には、紙製乗車券類の数値を含まない。
・二酸化炭素排出原単位の算定は地球温暖化対策推進法に基づく「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に準拠。



環境保全への取り組みを、投じたコストやその効果への両面からできるだけ定量的に把握し、効率的かつ効果的に環境活動を行うため、環境会計を導入しています。

2018年度の環境保全のための投資額は1,194百万円、費用額は401百万円でした。新型車両の導入・車内灯LED化による省エネルギー化や環境教育、イベントを通じた啓蒙など、環境保全に対して積極的な活動を行いました。今後も環境保全コストの管理やその効果の分析を行うことにより、より一層効果的な環境保全活動に取り組んでまいります。

■環境保全コスト

(単位:百万円)

内 容		投資額	費用額	
(1)事業エリア内コスト		1,194	337	
内 訳	①公害防止コスト	騒音対策:ロングレール化、PCマクラギ化、防音車輪導入など 水質汚染対策:排水・汚水処理設備の設置、改修など	264	168
	②地球環境保全コスト	新型車両の導入、車内灯LED化など	929	102
	③資源循環コスト	廃棄物処理・処分、廃棄物のリサイクルなど	0	66
(2)上・下流コスト		グリーン購入	0	53
(3)管理活動コスト		人件費、会議費、ISO活動維持費、環境教育費用、環境報告書の作成、イベント費用など	0	10
(4)社会活動コスト		環境保全を行う団体への支援など	0	0
環境保全コストの合計		1,194	401	

■環境保全効果

効果の内容		環境保全効果を示す指標	
		分類	値(量)
(1)事業エリア内で生じる環境保全効果 (事業エリア内効果)	①事業活動に投入する資源に関する効果	鉄道電力(付帯電力含)	1,433千kWh
		太陽光発電	1千kWh
		水道水	10千m ³
(2)上・下流で生じる環境保全効果 (上・下流効果)	②事業活動から排出する環境負荷 および廃棄物に関する効果	使用済み乗車券のリサイクルによる 廃棄物抑制量	20t
		(3)その他の環境保全効果	③事業活動から算出する財・サービスに関する効果
(3)その他の環境保全効果	④輸送その他に関する効果	—	—

■環境保全対策に伴う経済効果

(単位:百万円)

効果の内容		金額
収 入	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	107
費 用	省エネルギーによるエネルギー費用削減	22
	省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	3
合 計		132

○集計期間:2018年4月1日~2019年3月31日

○集計範囲:名古屋鉄道(株)の事業範囲

○確実に把握が可能で、環境目的が高い項目を計上

○金額は税抜き、百万円未満を切り捨てて表示

○環境省「環境会計ガイドライン」および(社)日本民営鉄道協会「民鉄事業環境会計ガイドライン」に準拠

○費用に減価償却費は含まず



次世代タクシー「JPN TAXI」を導入

名鉄タクシーホールディングスでは、2018年1月よりCO₂排出量が少なく、ユニバーサルデザインを採用している次世代タクシー「JPN TAXI」の導入を開始しました。車両にはホワイトとグリーンの伝統のツートンカラーを施しており、2019年9月末時点で155台を導入しています。

また、「JPN TAXI」の他にも環境に優しいFCV(燃料電池車)「MIRAI」なども導入しており、環境に配慮した企業を目指しています。



お問合せ 名鉄タクシーホールディングス株式会社
総務部 052-331-0111

バイオディーゼルバスを導入

名鉄バスでは、使用済みの食用油を再利用した燃料で動くバイオディーゼルバスを導入しています。バイオディーゼル燃料の二酸化炭素発生量は、原料の植物が吸収した二酸化炭素量を超えることはないため、石油などの化石燃料にくらべて環境にやさしい燃料といえます。また、硫黄酸化物や黒煙の発生が非常に少なく、空気を汚さない燃料としても環境負荷軽減に寄与しています。



※名鉄バスでは、名鉄グループ内のホテル・レストラン・遊園地などの飲食施設等から回収した使用済みてんぷら油(植物性廃食用油)を使用しています。

お問合せ 名鉄バス株式会社 総務部 052-588-0780

EVトラック(電気トラック)を導入

名鉄運輸では、EVトラックを導入しました。これは環境負荷軽減の取り組みの一環として導入したもので、CO₂やNO_x(窒素酸化物)・PM(粒子状物質)の排出がなく環境に優しいことに加え、騒音や振動が少ないため、ドライバーへの負担軽減につながります。

今後もEVトラックをはじめとする環境負荷軽減につながる車両を導入してまいります。



お問合せ 名鉄運輸株式会社 総務部 052-935-3987

省エネカーフェリーの就航

太平洋フェリーでは、2019年1月に大型カーフェリー「きたかみ」を就航させました。

新しい「きたかみ」は、船型やスクリューなどの推進機構に最新の技術を採用して船体抵抗を軽減しています。また、「航海支援システム」を導入し、気象・海象を分析して最適な航路・速度で運航することにより、従来の船と比べて約10%の省エネルギー化を実現しています。

省エネ効果が認められ、国土交通省による内航船「省エネ格付け」制度で、「☆☆☆(ハード対策及びソフト対策)」を取得しました。

今後も環境にやさしい海上輸送で安全・快適なサービスを提供してまいります。



2019年1月就航 「きたかみ」

お問合せ 太平洋フェリー株式会社 経営企画部 052-582-8777

清掃活動と環境学習を実施

豊橋鉄道では、毎年5月30日(ゴミゼロの日)に行う豊橋駅前でのゴミ拾いや、市内を流れる朝倉川の清掃を春と秋に実施するなど、自然あふれる住みやすい街を目指した活動を行っています。

また、愛知県との共同事業で、新城市の霊峰・鳳来寺山で、環境学習をテーマにしたハイキングのバスツアーを、2019年8月24日に実施しました。ご家族連れの参加者が多く、子供たちも鳳来寺山の自然や生態系について楽しく学んでいただきました。



2018年11月 朝倉川清掃



2019年8月24日 鳳来寺山ハイキング

お問合せ 豊橋鉄道株式会社 事業推進部 0532-53-2134

車輪フラット検出装置

名鉄EIエンジニアでは、鉄道車両の車輪に発生した損傷（フラット・剥離・熱亀裂など）を早期に検出する装置を、名古屋鉄道と共同開発し納入しています。騒音・振動低減による乗り心地向上、車輪削正手配の効率化、車輪削正量の低減に寄与しており、他の鉄道会社にも導入いただいています。



センサー設置状況

お問合せ
名鉄EIエンジニア株式会社 鉄道部 通信課 052-678-1814

照明設備LED化の推進

名古屋鉄道の駅照明設備をはじめ、名鉄グループ内外の企業向けの照明設備LED化ご提案（工事請負）を推進しています。これにより、年間消費電力で約158,983kWh、CO₂換算で約75t削減することができました。引き続きオフィス向けはもとより、工場・作業場・倉庫の照明についてもLED化の提案活動を進め、地球環境保護に貢献してまいります。



名鉄自動車整備場 整備用施設LED照明

お問合せ
名鉄EIエンジニア株式会社 営業部 営業4課 052-678-1773

リユース、リサイクルに関する取り組み

名鉄百貨店では、衣料引き取りキャンペーンを実施しています。これは、お客さまのご自宅で不要となった衣料品などをご提供いただき、中古衣料や反毛原料（はんもう：綿状や毛状の繊維に戻した原料）、ウエス材（清掃用の布きれ）としてリユース、リサイクルする取り組みです。

6月12日から18日まで、夏のリサイクルキャンペーンを実施し、多くの衣料品、ハンドバッグなどをご提供いただきました。



リサイクルキャンペーン

お問合せ
株式会社名鉄百貨店 営業推進部 売出計画担当 052-585-7381

カーシェアリング・シェアサイクルの実施

名鉄協商では、カーシェアリング・サービス「カリテコ」を展開しています。公共交通機関で、目的地に近いところまで移動し、そこからシェア（共有）する車を利用することにより、CO₂削減・渋滞緩和や交通事故の減少に繋がります。ステーション数は357ヶ所、車両台数455台で、東海エリアのほか関東に9ヶ所、北陸に3ヶ所カリテコの拠点がオープンしています。（2019年9月現在）

また、2019年5月に電動自転車のシェアサイクルサービス「カリテコバイク」の展開を開始しました。事前にスマートフォンなどで会員登録を行い、料金はクレジットカードで精算します。使用した自転車は借りたポートとは別のポートに返却する「乗り捨て」が可能です。名駅及び栄エリアを中心に13ヶ所のポート、40台の電動自転車を展開しています。（2019年9月現在）

これらのシェアリングサービスの活用によって、街の回遊を促進し地域の活性化に貢献するとともに、CO₂の低減に貢献してまいります。



カリテコバイク

お問合せ 名鉄協商株式会社
カリテコ カーシェア事業部 052-582-2495
カリテコバイク 企画統括 052-582-1042

団体向け環境体験プログラム “ビーチコーミング”

ビーチコーミングとは海岸（beach）にクシを通す（combing）という意味の造語で、分かり易く言うと、海岸に落ちている砂の粒以外の漂着物を拾って観察するという意味です。海岸には、植物の種子や貝殻といった自然由来のものから人工物（=ゴミ）まで様々なものが落ちてます。ガラス片の角が波の力で丸くなった“シーグラス”は美しく、まさに自然が作り出す造形美と言えます。漂着物がどこから流れてきたのか、身近な海に広がっている“環境”について改めて考えていただくことがこのプログラムの目標です。シーグラスや貝殻などの漂着物を瓶に詰めてお持ち帰りいただき、思い出作りにも役立っています。



貝殻などを詰めたマリネボトル

お問合せ 南知多ビーチランド 0569-87-2000

編集方針

本報告書は、名鉄グループの環境への取り組みについて紹介する冊子として作成しました。

より新しい情報を掲載するため、2019年度以降の取り組みについても一部紹介しています。そのほか、地域貢献活動についても、グループ各社を含めた実績を掲載しました。

本報告書の発行を通じて、さまざまな情報を開示し、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを促進していきたいと考えています。

対象組織範囲

名鉄グループを対象としています。

対象期間

原則2018年4月1日から2019年3月31日までとしています。ただしそれ以外の期間に取り組んだ内容も一部記載しています。

記載方法

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考にし、可能な限りガイドラインに記載された事項を網羅するよう努めました。

本報告書に関するお問合せ先

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会事務局(名古屋鉄道株式会社広報部内)
〒450-8501 名古屋市中村区名駅一丁目2番4号
TEL 052-588-0813 FAX 052-588-0815
E-mail action-eco@nrr.meitetsu.co.jp



用紙

この印刷物には適切に森林管理されたFSC認証用紙を使用しています。



フォント

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォント(書体)を使用しています。



インキ

植物油インキの使用により石油系溶剤の使用量、VOC(揮発性有機化合物)発生を抑え、鉛、水銀、カドミウムなどの重金属も使用していません。



印刷

インキ転写時にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、「水なし印刷」を採用しています。



このキャンペーンマークは、豊かな地球環境の象徴であり、同時に名鉄グループ エコ・ビジョンの基本理念を達成するための4つの要素「環境保全に対する「意識の向上」「技術力の向上」「地域との連携」を3枚の若葉で、それらを根底で支える「法令遵守」をレールで表したものです。

名古屋鉄道株式会社

環境報告書は当社ホームページでもご覧いただけます。 <https://top.meitetsu.co.jp/>

2019年11月発行